

F-SECURE

個人情報保護に関する 意識調査の結果

2019年7月



個人情報保護に関する意識調査

調査: F-Secure 個人情報保護に関する意識のコンシューマ層への調査

実施時期: 2019年5月

対象国: アメリカ合衆国、イギリス、ドイツ、スイス、オランダ、ブラジル、フィンランド、スウェーデン、日本 の9ヶ国

サンプルサイズ: 1ヶ国400人、合計3,600人

対象年齢: 25歳以上

調査会社: Toluna

For material

Source: F-Secure Identity Protection Consumer (B2C) Survey, May 2019, conducted in cooperation with survey partner Toluna, 9 countries (USA, UK, Germany, Switzerland, The Netherlands, Brazil, Finland, Sweden, and Japan), 400 respondents per country = 3600 respondents (+25years)

セキュリティインシデント

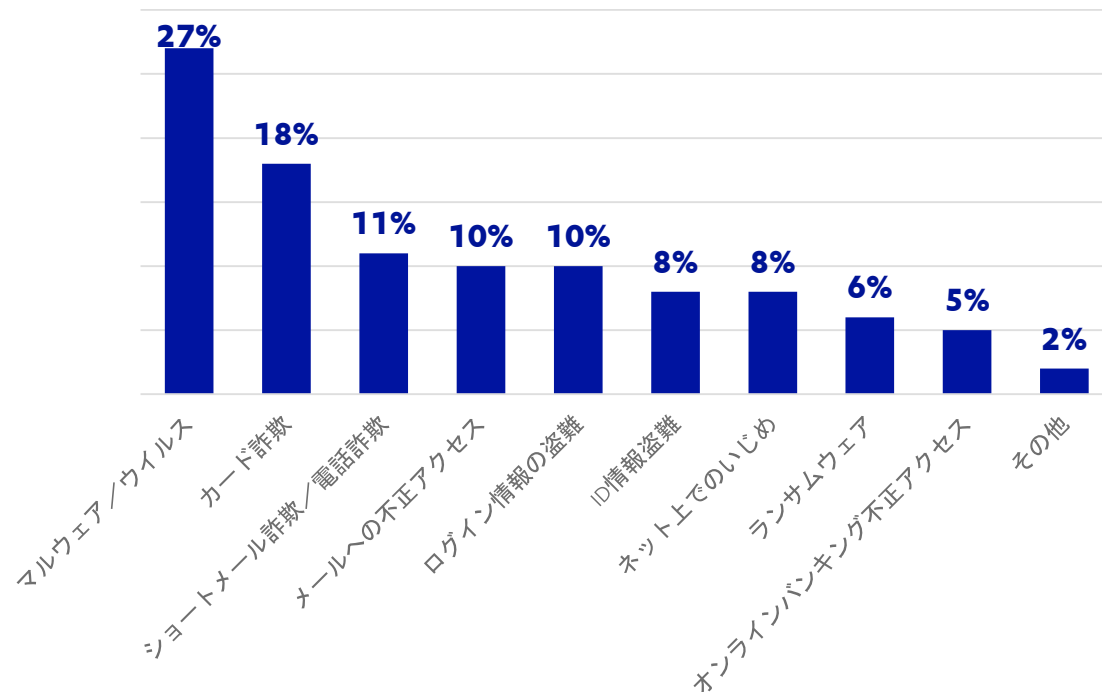
あなたまたはあなたの家族がサイバー犯罪の被害に遭ったことはありますか？

51% “はい”

26%

複数種類のサイバー犯罪による被害を受けたことがある

一般的なセキュリティインシデント



日常生活におけるリスク

42%が心配
(非常に心配 + 心配)

重い病気にかかる／ケガを負う



45%が心配
(非常に心配 + 心配)

なりすましの被害に遭う



45%が心配
(非常に心配 + 心配)

なりすまし以外のサイバー犯罪の被害に遭う



58%が心配
(非常に心配 + 心配)

重大な交通事故に遭う



■ 非常に心配 ■ 心配 ■ まあ心配 ■ あまり心配でない ■ 心配でない

オンラインの脅威への懸念

「心配」または「非常に心配」と回答した割合

58%

銀行口座へのハッキング & 預金の不正な引出し

56%

データ流失による
個人データの露出

55%

オンラインショッピング
詐欺、クレジットカード
番号の盗難

心配していないのは20%

54%

SNSアカウントの
ハッキング

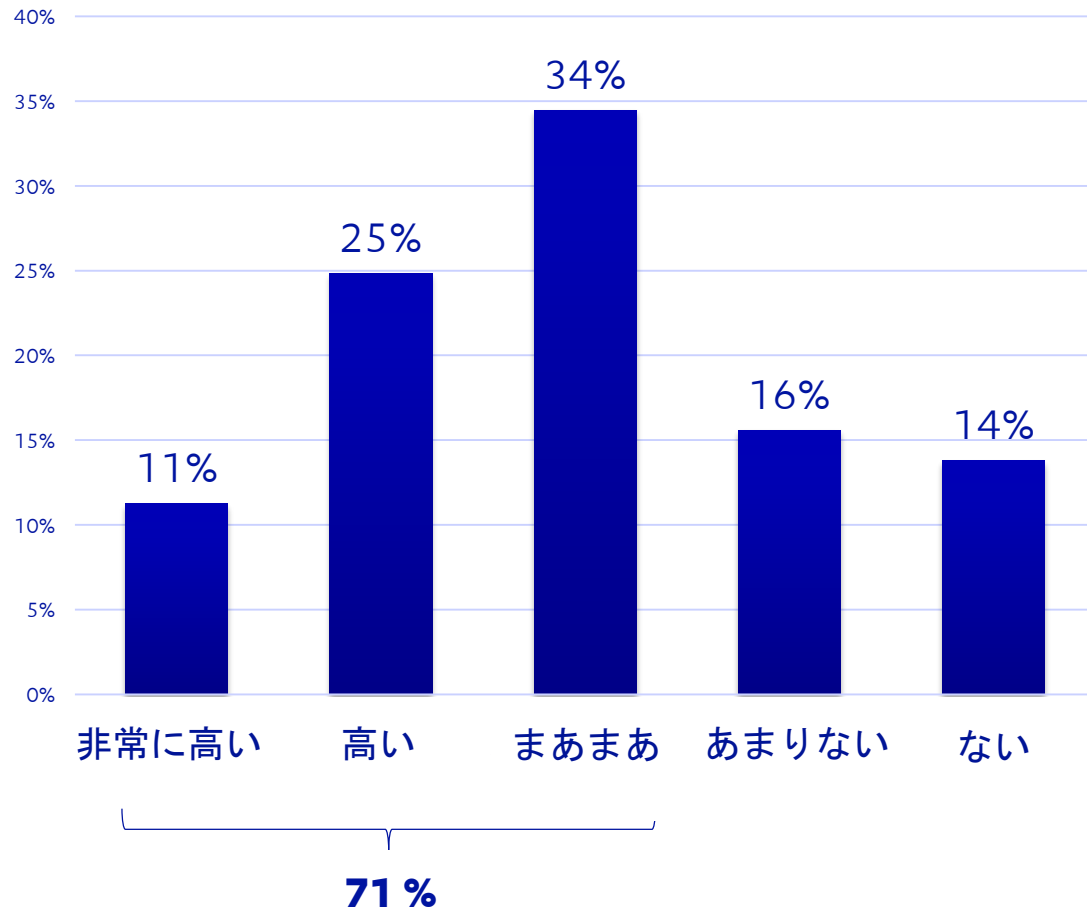
54%

メールアカウントの
ハッキング

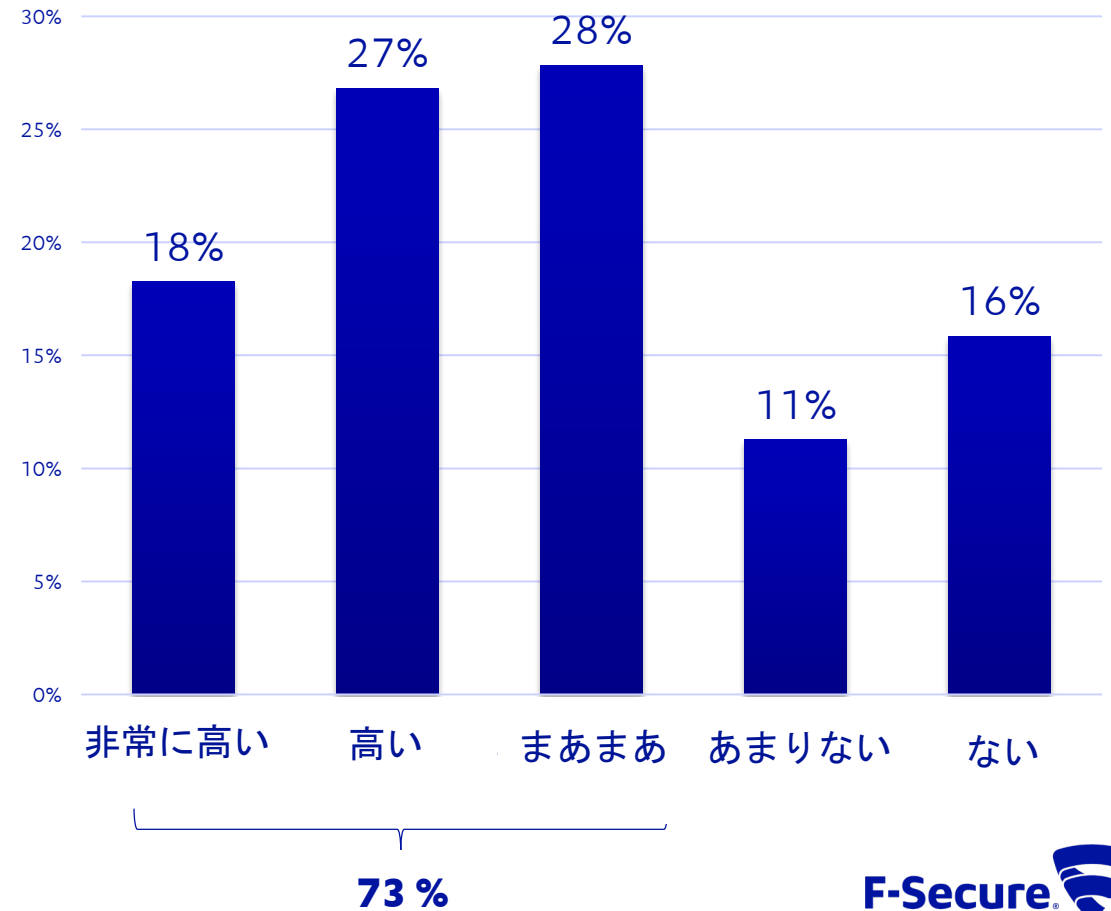
サイバー犯罪リスクへの意識

あなた自身または家族がサイバー犯罪やなりすましの被害者となる可能性が、どの程度あると考えますか？

自分が被害を受ける



子供が被害を受ける



サマリー

コンシューマ層が持つ、なりすましやサイバー犯罪への懸念

ネット上の脅威について心配である

58%

銀行口座がハッキングされ、預金が盗まれる

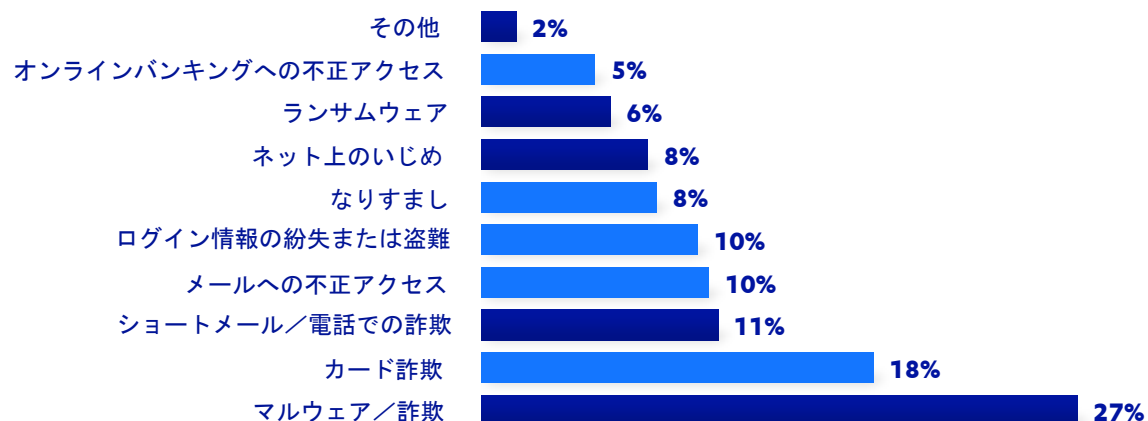
56%

情報漏洩の一環で自分の個人情報が流出

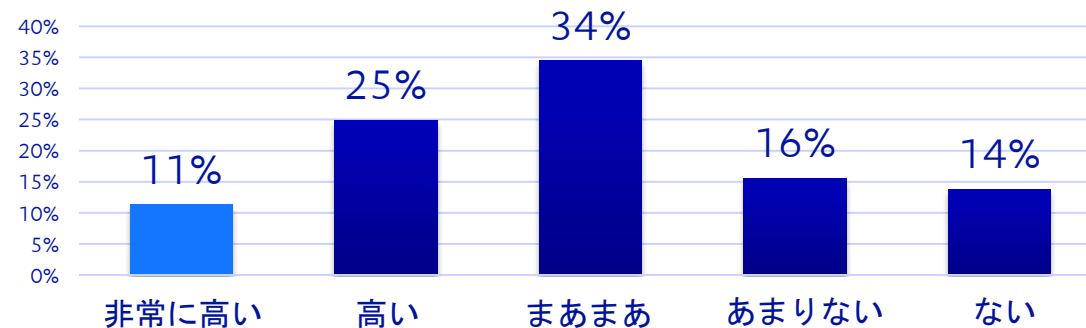
55%

オンラインショッピング詐欺

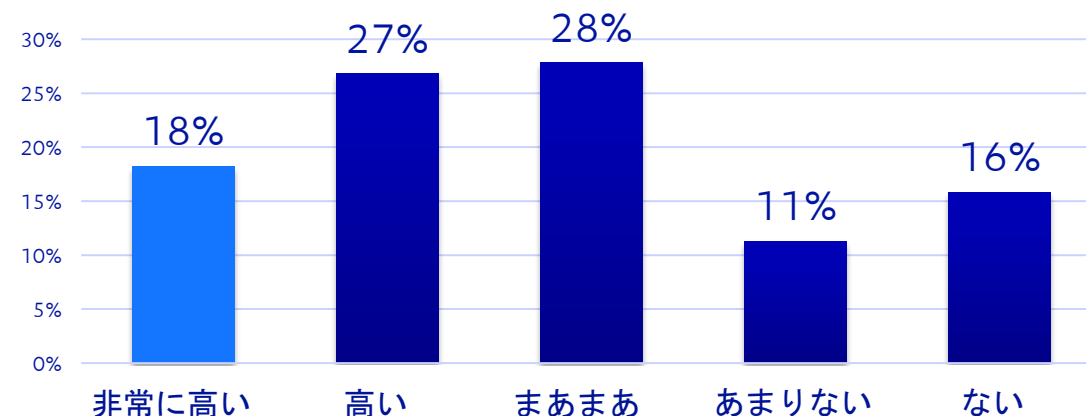
家族がサイバー犯罪の被害に遭った



自分が被害者となる

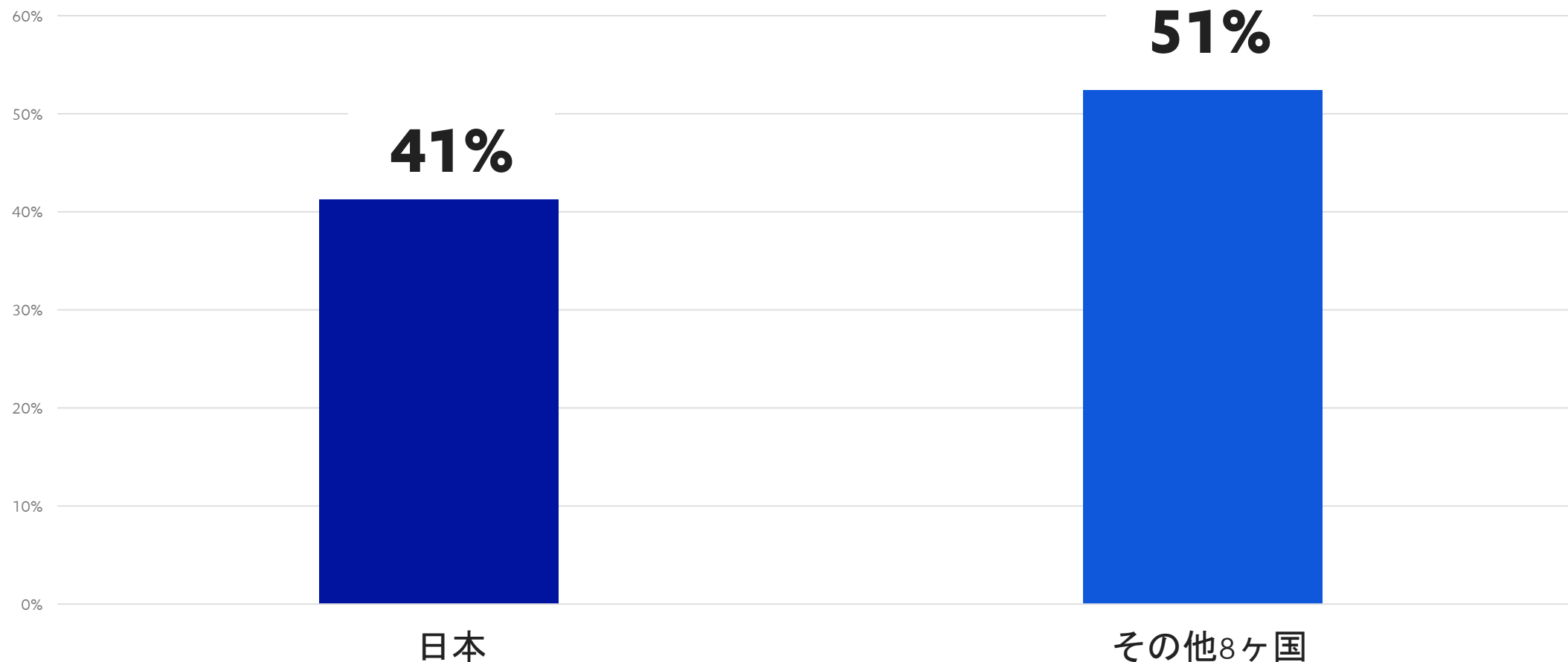


子供が被害者となる



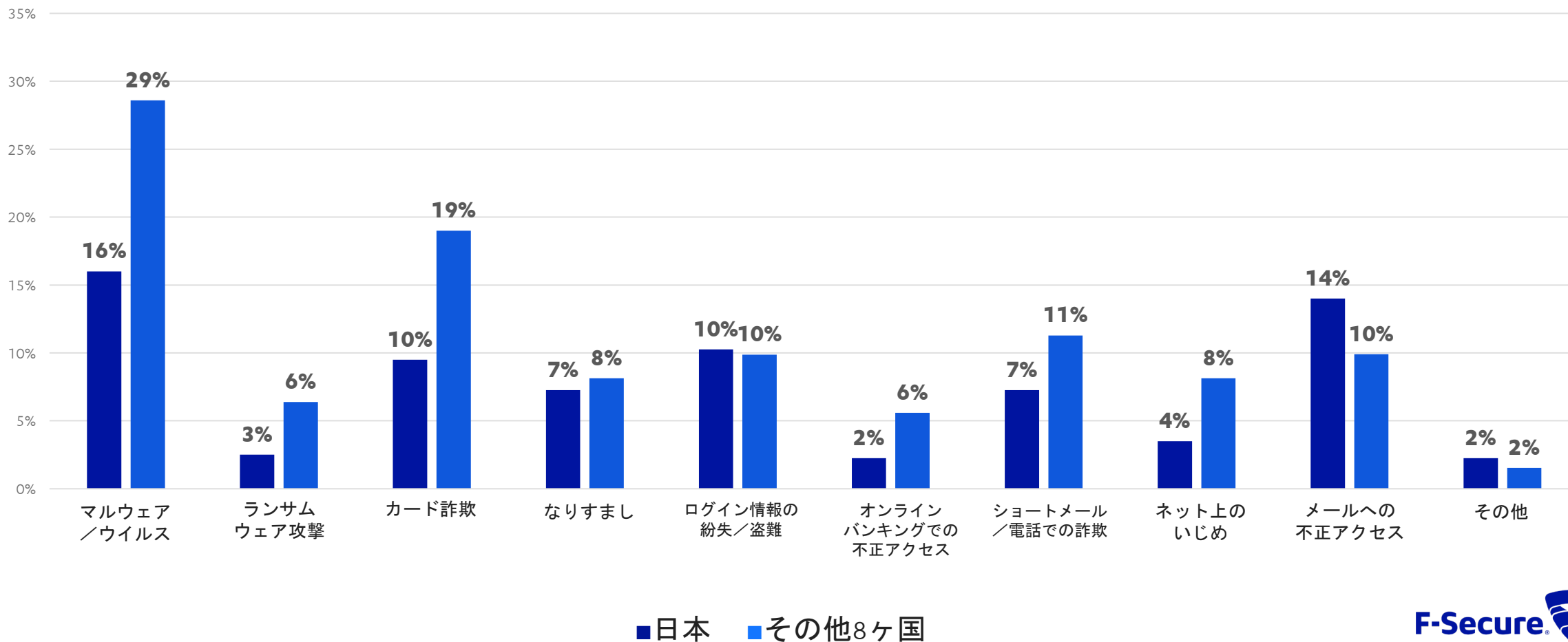
日本とその他 対象国との比較

自分または家族が何かしらのサイバー犯罪の被害を受けたことがある



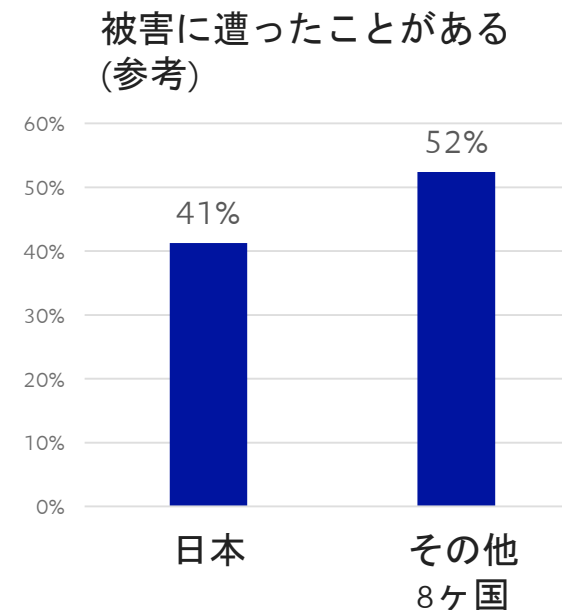
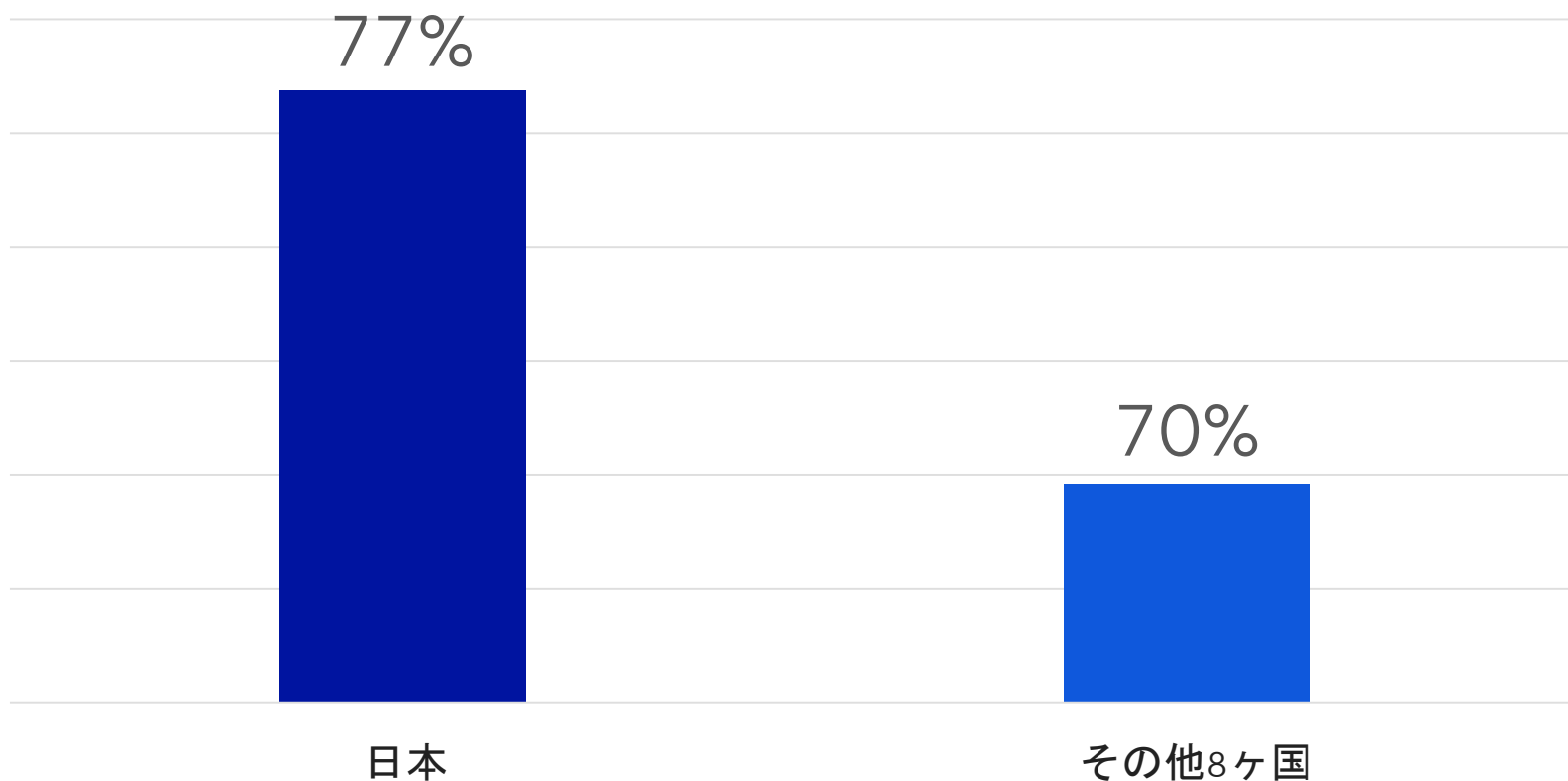
自分または家族が何かしらのサイバー犯罪の被害を受けたことがある

自分または家族がサイバー犯罪の被害に遭ったことがありますか？に「はい」と回答した割合



サイバー犯罪またはなりすましの被害リスク

0(可能性が全くない)から10(可能性が非常に高い)の評価で、
5(まあまあ)から10(非常に高い)と回答した割合



様々な脅威に対する懸念

0(全く心配していない)から10(非常に心配)の評価で、5(まあ心配)から10(非常に心配)と回答した割合

